

国家課題対応型研究開発推進事業 原子力システム研究開発 ー基盤研究開発分野ー  
革新技術創出発展型 事後評価総合所見

研究開発課題名(研究機関名):

「次世代再処理機器用超高純度EHP合金の実用化に関する研究開発」

研究代表者(研究機関名):中山 準平(株式会社神戸製鋼所)

再委託先研究責任者(研究機関名):滝沢 真之(株式会社三菱総合研究所)

再委託先研究責任者(研究機関名):井岡 郁夫(独立行政法人日本原子力研究開発機構)

再委託先研究責任者(研究機関名):西本 和俊(国立大学法人大阪大学)

再委託先研究責任者(研究機関名):稲熊 正彦(日本原燃株式会社)

研究期間及び予算額:平成21年度～平成23年度(3年計画)675 百万円

項目	要 約
1. 研究開発の概要	次世代再処理の耐硝酸性機器用に開発した超高純度 EHP 合金素材の実用化のため、実用機器の製造技術を確認して、実環境模擬の放射線場試験を含む耐久性評価試験等を実施し、再処理機器に要求される閉じ込め機能や耐震性上の優位性を評価する技術開発であり、これらの成果を元に規格化・基準化をも目指す。
2. 総合評価	<div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px; text-align: center; width: 30px; height: 30px; line-height: 30px;">S</div> <div> <p>・次世代再処理合金素材 EHP の実用化のため、主要な部材の試作・評価及び異材継手を含めた溶接施工性試験を行うとともに、実環境模擬の放射線照射場試験及び耐久性評価試験を行い、既存材料に対する優位性を評価し、実用化に対する見通しを得たものであり、極めて優れた成果が挙げられている。</p> <p><b>S)極めて優れた成果を挙げ、今後の展開が大いに期待できる。</b></p> <p>A)優れた成果を挙げ、今後の展開が期待できる。</p> <p>B)成果の一部は得られてないが、他は相応の成果を挙げている。</p> <p>C)成果の多くが得られておらず、一部についてのみ相応の成果を挙げている。</p> <p>D)成果がほとんど挙げられていない。</p> </div> </div>